

〈短報〉

長野県松本市におけるシラホシムグラ *Galium aparine* L.の侵入堀井日香里¹・島野光司²・佐藤利幸²

New record of *Galium aparine* L. in Matsumoto city, Nagano prefecture. Hikari HORII¹, Koji SHIMANO² and Toshiyuki SATO^{2*} (¹Graduate School of Science and Technology, Shinshu University, ²Faculty of Science, Shinshu University, Asahi 3-1-1, Matsumoto, Japan. *E-mail: toshibo@shinshu-u.ac.jp) *Bulletin of the Institute of Nature Education in Shiga Heights, Shinshu University* 52: 17-18 (2015).

2014年6月4日、長野県松本市で、これまで分布が報告されていなかったシラホシムグラ (*Galium aparine* L.) の分布を確認したので報告する (写真1)。

シラホシムグラはアカネ科ヤエムグラ属の越年草で、日本全国に分布するヤエムグラ (*G. spurium* L. var. *echinospermon* (Wallar..) Hayek) によく似ているが、全体的にヤエムグラに比べて大きい。葉は長さ30~60mm、幅3~8mmの被針形で6~8枚輪生する。葉の向軸面の全面に外向きに生える刺が、背軸面の葉縁上と主脈上に内向きに生える刺がある。茎は120cm以上にも達することがあり、多数に枝分かかれし不規則に伸びる。茎の横断面は四角形で、四稜に下向きの刺がある。花は白い。ヤエムグラとの顕著な違いとして茎節部に長い密毛が生えることが挙げられる (写真2, Malik & Vanden Born, 1988; 木村・小土井 2008)。

シラホシムグラはヨーロッパ原産でヨーロッパ各地および北アメリカにも分布が確認されているが、



写真1. 松本市で確認されたシラホシムグラ
ヤエムグラとよく似ている。

近年日本へ侵入し定着しつつある報告がされている (植村ら 2004)。しかし、長田 (1979) の原色帰化植物図鑑、清水 (2003) の日本の帰化植物にもシラホシムグラの記載はされていない。和名の命名者である植村ら (2004) によると、1995年5月に香川県坂出市築地港、1998年5月に兵庫県三原郡南淡街吹上浜、2001年5月に大阪府南河内郡三原町北余部、2004年5月に大阪府岩湧山千石谷林道と大阪府藤井寺市大和川河川敷にて確認されている。また、木村・小土井 (2008) によると、千葉県江戸川流域には広範囲に分布しているほか、1990年に千葉県野田市岩名にて採集された標本にシラホシムグラがあっ

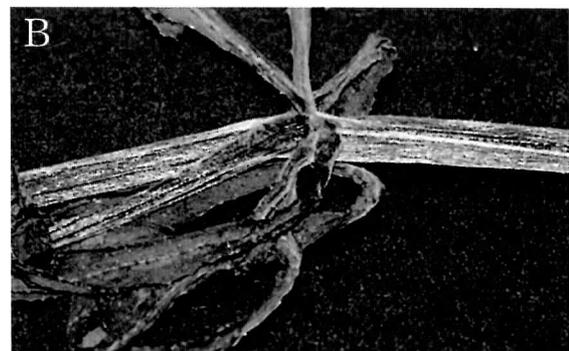
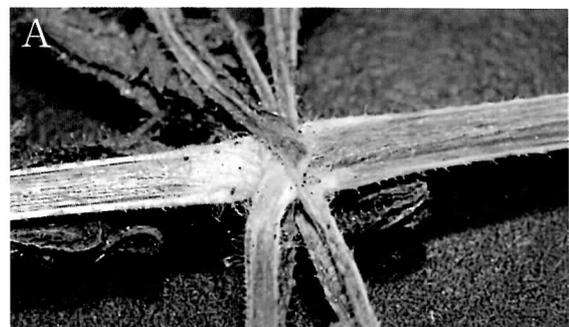


写真2. (A) シラホシムグラと (B) ヤエムグラの
茎節部の違い

シラホシムグラには長い密毛があるが、ヤエムグラにはない。

¹ 信州大学大学院理工学系研究科

² 信州大学理学部 (*連絡先〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 E-mail: toshibo@shinshu-u.ac.jp)

たという報告がなされている。しかし、長野県での報告はまだされていない。

生育を確認したのは長野県松本市旭の女鳥羽川右岸の河川敷である。女鳥羽川は松本市の市街地を流れる一級河川である。シラホシムグラが生育していた周辺の植生はスズメノエンドウ (*Vicia hirsuta* L. Gray), ヨモギ (*Artemisia indica* var. *maximowiczii* (Nakai) H. Hara), ニワウルシ (*Ailanthus altissima* (Mill.) Swingle), イヌドクサ (*Equisetum ramosissimum* Desf.), ヘラオオバコ (*Plantago lanceolata* L.), ノミノツヅリ (*Arenaria serpyllifolia* L.), カナムグラ (*Humulus japonicus* Siebold & Zucc.) などが生育していた。現地を確認されたシラホシムグラの個体は複数で、上記の種らと群落を形成していた。また、2014年6月4日の時点では花期のもと果実期のものが個体群内で様々であった。なお、5月中旬には女鳥羽川の河川敷を上がった道路脇にヤエムグラが確認できたが、6月4日の時点では枯死していた。

本報告書の執筆にあたり、横内文人氏には標本作製をご教授頂き、元神奈川県立博物館の高橋秀男氏には同定をして頂いた。以上の方々にお礼を申し上げます。なお、標本は信州大学に収めた。標本番号はSHIN69780~69786である。

引用文献

- 木村陽子・小土井智行 (2008) シラホシムグラ (アカネ科) が、千葉県江戸川流域に多産。千葉県植物誌資料 24: 230-232.
- Malik N. & Vanden Born W. H. (1988) The biology of Canadian weeds: 86. *Galium aparine* L. and *Galium spurium* L. Canadian Journal of Plant Science 68: 481-499.
- 長田武正 (1976) 原色日本帰化植物図鑑. 保育社, 大阪.
- 清水建美 (2003) 日本の帰化植物. 平凡社, 東京.
- 植村修二・水田光雄・藤平明 (2004) 日本に帰化したシラホシムグラ (新称). 帰化植物写真ニュース No.4, 全国農村教育協会, 日本帰化植物友の会事務局, 東京.